

薬局における吸入指導の有用性 ～認知症患者の吸入薬剤変更になった1例～



サン薬局桜井西店
山崎 裕己

第54回日本薬剤師会学術大会 利益相反の開示

演者名： 山崎 裕己

私は今回の演題に関連して、
開示すべき利益相反はありません。

調査目的

- 2020年4月から吸入指導加算が新設された
- 薬局での吸入指導がどれ程治療に貢献する事が出来るのか？
- 薬局と医療機関が連携する事で処方内容に変更はあるのか？



2020年4月以降で吸入指導加算を算定している患者を抽出。
継続して吸入指導を行う事で、どれ程治療に介入出来たか調査

吸入指導加算とは

- 喘息・慢性閉塞性肺疾患（COPD）の患者が対象
- 医療機関からの求めや、患者又は家族から求めがあり医師の了解を得られた時に行う
- 患者の同意を得たうえで行う
- 吸入薬の使用方法について文章及び練習用吸入器を用いた実技指導を行う
- 指導内容を文章またはお薬手帳により医療機関に情報提供する
- 3か月に1回に限り算定する
（他の吸入薬が処方された場合は3月以内であっても算定可能）

症例報告

- 70代男性
- 奥様と2人暮らし
- 6年前から慢性閉塞性肺疾患（COPD）の治療開始
- 処方内容：
オロパタジン5mg、ロスバスタチン2.5mg、ブロムヘキシシン4mg、スピオルト®レスピマット®
- 処方内容に大きな変更は無く、長年継続処方が続いている
- 服薬指導時に吸入状況を確認するも『問題なく使えています』と返事がある
- 本人の希望でスピオルト®レスピマット®は患者自身でセットし吸入してもらっている
- 2年前より認知症を患い治療中
- 併用薬：ガラントミン8mg、チアプリド50mg

ある日患者から

『吸入薬からバネのような変な音がするぞ』と電話が入る



自宅に伺い状況を確認

→患者がスピオルト®レスピマット®を無理な状態でセットし破損していた



次回来局した際に初めて吸入指導を行い吸入状況を確認した

吸入指導を行いこの症例における スピオルト®レスピマット®の改善すべきポイント

- 吸入薬のセット → 患者の力が衰えており難しい様子
- 空打ち → 行えていない
- 吸入前の息吐き → 行っていなかった
- 吸入動作・タイミング → 強く瞬時に吸入している
(深く・ゆっくり行えていない)
- 吸入後の息止め → 不十分

【総括】

吸入手技もだが、吸入の仕方やタイミングが特に悪く薬効が十分に発揮出来ていないと考えられた。認知症を患っているせい理解力も乏しく、奥様と一緒に吸入指導し吸入サポートをお願いした。

次回来局した際に再度吸入状況を確認



- 吸入薬のセット → 薬局でセットする事により解決
- 空打ち → 奥様が行ってくれており解決
- 吸入前の息吐き → 改善傾向
- 吸入動作・タイミング → 改善していない
ボタンを押すと同時に勢いよく瞬時に吸入している
- 吸入後の息止め → 改善傾向

【総括】

吸入状況は全体的に改善傾向ではあった。ただ吸入動作自体は改善出来ていなかった。
【ボタンを押す】 【ゆっくり深く吸入する】 という同時の操作が難しい様子。

吸入状況を再度処方医に報告・相談

【報告・相談内容】

- 吸入手技は奥様のサポートもあり改善傾向にある
- 吸入自体は改善しておらず、ゆっくり深く吸入するタイミングが難しい様子
- 吸入する力自体は衰えていないと感じる



スピオルト®レスピマット®から
シムビコート®タービュヘイラー®に薬剤変更



再度シムビコート®タービュヘイラー®に対しての吸入指導を患者と奥様の二人に行った

次回来局した際に再度シムビコート®タービュヘイラー®の吸入状況を確認

- | | |
|--------------|---|
| ■ 空打ち | ➔ 奥様が継続して行っており問題無し |
| ■ 吸入操作 | ➔ 操作が難しく奥様が行っている（問題無し） |
| ■ 吸入前の息吐き | ➔ 無理のない程度に行えている |
| ■ 吸入動作・タイミング | ➔ 素早く強く吸入出来ており改善した |
| ■ 吸入後の息止め | ➔ 無理のない程度に行えている |
| ■ 吸入後のうがい | ➔ 時々出来てない時もあるらしいが、吸入後は必ずお茶を飲んでいる（医師も了承済み） |

【総括】

吸入薬剤が変更になり全体的に吸入状況は改善された。以後も定期的に吸入指導を行い状況を確認し処方医に随時報告を行っている。

結果・考察

- 吸入薬を長期継続している患者の中には手技が疎かになっているケースが多々あった
- 認知症患者や高齢患者では、通常の服薬指導では吸入手技を理解出来ていなかったケースも存在した
- 吸入指導を行う事で現状の問題点や課題が発見でき、それを一緒に改善し、処方医にも報告する事で次回以降の治療内容に反映させる事が出来た
- 定期的に吸入指導を行う事で現状を確認出来るだけでなく、患者との信頼関係も構築する事ができ、お薬の質問や相談等もしてくれるようになった方もおられた
- 薬局における吸入指導は吸入状況を改善し喘息治療に大きく貢献出来る。
患者・家族との信頼関係も築け、医療機関とも連携する事が出来る重要なツールであると感じた。